

「幼保小の架け橋への方策とその工夫に向けて」 ～各園の現状を踏まえ、連携、接続への一步を進める中で～

発表者：神戸市私立幼稚園連盟 グループ研究会

I. はじめに

幼稚園では、園児が巣立ちを迎える頃、日々全身で関わり育んできた子どもたちの力が小学校の学習や生活に活かされ、多少の段差をも乗り越え、自己発揮しながら大きく成長してくれることを期待して送り出したいと願う。

そのために、今まで幼保小の連携や学びと育ちの接続に向け、相互の話し合いや様々な交流活動、架け橋期のカリキュラムの作成、互いの保育・授業参観など、その必要性から各校園で実践されてきた。

一方、各校園では、人材不足や地理的な条件、長時間保育による多忙さなどの要因が壁となり、連携・接続への取り組みを阻んでいる現実がある。

そこで今回、文科省より「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けた手引」（令和4年3月）や都道府県協議主題「幼保小の円滑な接続の推進」（令和6～7年度）が示されたことに併せ、これからの子どもたちの充実した学校生活を願い、一步でも前に進めたいと願い、上記テーマを設定した。

その際、接続を考える視点や方策、接続に向け幼児教育で大切にすべきこと、何をつなぎ、どう伝えるのかなど、架け橋に求められる課題を学び合い、併せて各園の考えや実情を踏まえた取り組みを中心に研究協議を進めていきたい。

II. 研究の内容と方法

各園での実践に当たり、事前に下記の案件について共通理解を図り、特に幼児教育の特質や「幼児期に育ってほしい姿」などを手掛りに子どもの育ちの姿を伝え、つなぐための必要な方策とその工夫について検討・協議していきたい。

〔主な検討・協議の内容〕

（1）幼小の教育の特質や相違について

＜幼 児 教 育＞学びの基礎力の育成。遊びを通した総合的な指導。経験重視の経験カリキュラム。

＜小学校教育＞生涯にわたって自ら学ぶ態度の育成。教科など学習中心の指導。教科カリキュラム。

※小学校学習指導要領に、低学年で各教科とも「幼児期に育ってほしい姿」を考慮した指導を明記。

（2）架け橋期を踏まえ、幼児に育むべき大切に重要な経験や取り組みについて

- ・様々な活動や課題に対し、試行錯誤し仲間と共に意欲的に取り組む姿勢を育むために、学級での対話活動の機会を重ね、主体的に解決に向けて取り組む経験が必要である。
- ・小学校生活や学習で主体的・協同的に探求していく力の基として、対話を通して自分なりに考える力・言葉で伝える力・仲間の考えを受け入れ協同してやり遂げる力など、学びに向かう態度や力（非認知能力）を育むことが求められる。そのためには、普段から仲間と十分関わって展開する生活や一人ひとりの想いを受け止め認め合い信頼関係に支えられた生活を築くことが不可欠である。

（3）幼小の接続に向けた具体的な方策について

保育指導や子どもの育ちの現状、交流活動のねらいや内容など、幼小の先生方の下記のような話し合いが大切になってくる。

- ・どのような交流ができるか
 - 保育や授業の参観、給食や学習参観。
 - 双方による事前・事後の話し合いを通した学校探検など生活科や行事による交流。
 - 休み時間を活用した自主交流。
- ・架け橋期の保育計画の作成に向けた園内の取り組み。
- ・幼小の接続カリキュラムの共同作成。
- ・子どもの育ちや学び、活動の姿を伝える工夫。
 - 要録や園だよりを小学校に送付するに当たり、記述内容の工夫。
 - 幼小連絡会での情報交換で何を伝え、話し合うか。
 - 保護者アンケートの活用。

Ⅲ. 発表事例（４園）

<発表①> 小学校への架け橋に向けて

兵庫大学附属須磨幼稚園 早川 紘未

○本園の概要

本園は、創立以来、聖徳太子の御心を柱として「和」の精神をモットーに豊かな人格と健やかな身体づくりを目指して幼稚園教育の発展・充実に注いでいます。また、多様な人たちとの関わりや国際色溢れる体験ができる英語クラス（イマージョンクラス）・科学の不思議や体力向上を目指した運動面「なぜ？どうして？」をじっくり探ることができる普通クラス（ベーシッククラス）があります。

〈事例１〉「就学を控えた保護者からの聞き取り」（７月２２・２３日の個人懇談会） ～小学校に向けた不安・心配事について～

- （学習面） ・ タブレット教育はいつから導入されるのか？
・ 小学校入学までに「ひらがな・カタカナ・計算」などをしていた方が良いのか？
・ 鉛筆の持ち方をきちんと家庭で教えていた方が良いのか？
・ 自分の気持ちをため込む性格だが大丈夫か？
- （給食面） ・ 好き嫌いが激しいけれど給食は大丈夫か？
・ お箸が不安。
・ 食べる時間が長いけれど給食の時間はだいたい何分間なのか？
- （友達関係） ・ 進学予定校に園から一人の予定だが友だち関係が不安。
・ 環境の変化に敏感なのだが他にもそのような子がいるのか？
- （その他） ・ タブレットは購入なのか？貸し出しなのか？
・ 防犯ブザーは購入なのか？GPS は配布されるのか？
・ 集団登校、下校なのか？
・ 共働きをしているため、小学校内に学童はあるのか？
また、学校が進める学童の場所などがあるのか？

考 察

１学期を終えすぐの個別懇談会で初めて就学に関する内容を保護者に聞き取りすることができた。ランドセル購入の時期とも重なり物品に関する不安もあったように思う。また、共働きの方が多く、早くから学童のことも考えられている様子だった。

子どもたちは、預かり保育に学童の子が来ており、その姿を見て憧れを感じている子どもが多く「早く宿題したい！」という意欲的な子どももいる。

幼稚園だけでは分からないことに保護者は不安も抱いていることが多くあるため、不安を軽減するためにも幼小連携を行い、先生同士の交流・意見交換・ある程度の入学準備への知識などが必要になると感じた。

〈事例２〉「架け橋期のカリキュラムの交換・対話の会」

～こべっ子の学びをつなぐ「つばめプロジェクト」に願いを込めて～

- １．日 時：令和６年９月２０日（金）１６：００～
- ２．場 所：神戸市立西須磨小学校
- ３．参加者：西須磨小学校長 ・ 西須磨小学校一年生担任 ４名
西須磨幼稚園 １名 ・ 千鳥幼稚園 ２名
須磨浦幼稚園 １名 ・ 兵庫大学附属須磨幼稚園 ２名
- ４．内 容：西須磨小学校のスタートカリキュラムについて（入学から４週間）
カリキュラム自体が「学習の視点」で色分けされていて、分かりやすいものだった。

赤色・・・子どもが安心感をもち新しい人間関係づくりを意識した学習 緑色・・・合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習 青色・・・教科等を中心とした学習

入学からの１週目は「赤色・緑色」が多く、２週目から「青色」が入り、４週目には「赤色」がなくなり「青色」がほとんどを占めるようなものだった。
また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」も書かれていた。

●担任の先生方の話

- ・教室には視覚的支援として「登校後の準備の仕方」や「出す物（提出物）」などを写真と文字で掲示物を作り貼っている。しかし、文字が読めない子どももいて試行錯誤している。
- ・入学当初は、ランドセルの開け閉めから練習している。
- ・小学校探検のようなツアーを行い、不安を減らしている。
- ・最初は「チャイム」を無視した生活リズムで手遊びなどリズム遊びを入れながら集中できる時間を増やしている。

5. 対話の会（●小学校○幼稚園）

- 幼稚園と小学校ではクラスの人数が違い、小学校では1クラス約30名いる。そのため困っていることを自分から発信できる力が必要となる。
 - お箸の持ち方まで給食の時間に指導することが難しいため、家庭・幼稚園で教えてほしい。
→今の子どもたちは「自分だけフォーク・スプーンを持っていて恥ずかしい・・・」ではなく、「良いだろう・・・」というような様子。ライバル意識や競争心が少ない。
 - 小学校では、チャイムが鳴るとまだ続けていたいことでもやめて次の授業に移る。逆を言えば集中が続かなくてもチャイムまではその授業を最後まで取り組まなければならないため、幼稚園とは生活の仕方が違うと思う。
 - 保護者の方は、入学までに「絶対、ひらがなを書けなければならない・・・」「計算できなければ」と思ってしまうかもしれないが、「経験」をしておいた方が良いと思ってもらえれば大丈夫。
 - 子どもたちの姿を見ると「ハイハイができない」・「ぞうきん絞りができない」・「ほうきを使えない」子どもが増えているように思う。
- 行事・授業参観・給食風景を子どもたちと見学したい。
- 小学校の先生が幼稚園に来てもらい話をしてもらう。
(模擬授業やこういう所だと伝えてもらえば刺激になる。)

6. まとめ

対話の会に参加して、一年生担任の先生方とお話をする事ができたことで、小学校での生活リズムの流れや困り感などを伺うことができた。また、教科書や実際の掲示物も見せていただき、幼稚園で経験したことの継続から新たにスタートしているのだと改めて感じた。

「給食のエプロンを机や地面に置かず畳むことができるように」・「ハサミ・のりの使い方」・「お箸の持ち方」・「自分の言葉で困ったことを伝えられるように」などは、今からの取り組みでできる子どもが増え、小学校に入学してからの困り感が軽減できると考える。今からできることを積極的に取り組んでいきたいと思う。

<発表②> 小学校との連携・接続の取組 ～近隣幼保園との連携を通して～

幼保連携型認定こども園 神戸女子大学附属高倉台幼稚園 久郷 真美

○本園の就学状況

本園は、須磨区に位置し、高倉台小学校と連携・交流している。通園している子どもたちは、様々な地域から来ていて、令和6年度の修了児は15校の小学校に入学する。

○昨年の振り返りと課題

小学校との交流を通して子どもたちの小学校生活への興味が広がるとともに、安心感に繋がったと感じる。今後は、交流するだけでなく、幼小の教職員が共に架け橋期の子どもの姿や保育・教育の在り方を話し合い、分かり合うことが課題である。

○令和6年度 連携・交流計画

※詳細は当日配付資料1 参照

交流時期・○ねらい	内 容
8月1日（木） ○幼小保接続のねらいや計画について意見を出し合う。	○幼小保連携接続スタートアップカリキュラム作成に向けての話し合いと意見交換をする。 (小学校の先生から子どもの様子を伝え合うとともに互いのカリキュラム内容を共有する。)

9月12日（木） ○近隣幼稚園や保育所との連携を図る。	○3園交流の内容等について互いの思いを伝え合う。
11月5日（火） ○綺麗な歌声や楽器の音色を聴き、小学生に憧れの気持ちをもつとともに、「音楽であそぼう」への意欲を高める	○小学校の音楽会リハーサルを鑑賞する。
11月6日（水） ○YMCAちとせ幼稚園と高倉台保育所の子どもたちとの交流を楽しむ。	○リレーやなかよし遊びをする。
11月19日（火） ○「命のコンサート」に誘い、園庭で3園交流する。	○命のコンサートに他園の園児とともに参加し、演奏を楽しんだり、命を守る意識を高めたりする。
12月5・6日 2月20・21日 ○12月の「音楽であそぼう」や2月の「劇あそび」の取組を小学校の先生に見ていただくことで、この時期の幼児の育ちの理解を図る。	○「音楽であそぼう」「劇あそび」の当日または前後に小学校の先生を招待し、見ていただく。

〈事例1〉「第1回幼保小連携・接続カリキュラム作成に向けての情報交換の会」

1. 日 時：令和6年8月1日（木）10：30～11：30
2. 場 所：神戸市立高倉台小学校
3. 参加者：高倉台小学校1年生 ・ 神戸市立高倉台保育所 ・ 神戸YMCAちとせ幼稚園
神戸女子大学附属高倉台幼稚園の担任及び主任等
4. 内 容
 - (1) 情報交換のねらい
 - ・ 幼保小接続期の保育・教育のねらいや計画について話し合い、分かり合う。
 - (2) 幼保園の生活について
 - ・ YMCAちとせ幼稚園
→好奇心をもち夢中になる遊びを実践し、卒園までに育ってほしい10の姿を具体化していくように努めている。
 - ・ 高倉台保育所
→好きなことに遊び込む時間を確保する中で、子どもたち同士が心地よい関係が築けるよう援助している。
 - ・ 高倉台幼稚園
→主体的な遊びの中での学びを大切にしている。幼小の交流とともに、近隣園と交流していくことで、小学校への安心感に繋げたい。
 - (3) 情報交換を終えて
 - ・ 小学校だけでなく、近隣の幼稚園や保育所とのコミュニケーションを図ることができてよかった。また、小学校のスタートカリキュラム内容や入学当初の子どもたちの様子を聞くことで接続期に必要な経験を分かり合うことができ、子どもたちが楽しみながら交流できる内容を検討するきっかけとなった。

〈事例2〉「3園の交流会」(みんなであそぼう)

※詳細は当日配付資料2参照

1. 日 時：令和6年11月6日（水）10：00～10：50
2. ねらい：近隣園の友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
4月から同じ1年生になる友達に親しみをもつ。
3. 活動内容
 - ・歌を歌ったり、体操や玉入れ、リレーをしたりする。
4. 3園交流会を通して
 - ・子ども同士が交流して親しくなっただけなく、事前の打ち合わせなどで担当者同士のコミュニケーションが図れた。
 - ・3園混合チームでの玉入れやリレーを楽しみ、4月から同じ1年生になる友達を意識できたことで、少しでも小学校入学に対する不安感が薄れ、安心に繋がるのではないかな。
 - ・今回は内容や進行について計画を立てて交流したが、お互いの園に行き、園庭で自由に遊ぶことで自然な会話や親しみが生まれるのではないかな。来年度に活かしていきたい。



<発表③> 1年生と一緒に小学校見学をしよう

育英幼稚園 西岡 雛乃

1. 本園の概要

当園は、賑やかな板宿商店街の間近にあるが、別世界のような静かな住宅街に位置し、広い園庭には四季折々の木々や草花が育ち豊かな自然に溢れている。子どもたちが、恵まれた環境に自ら関わりながら友達と共に遊びを展開し、創造性や社会性を培っていくことを大切にに取り組んでいる。

2. 実践事例

- ねらい 1年生と触れ合い小学生に憧れの気持ちを持つ。
教室や小学生が勉強する様子を見学し進学に期待感を持つ。

○展 開 11月14日（水）9：45～10：15

5歳児：男児9名・女児8名 計17名

活動内容：1年生とペアになり校内を案内してもらいながら見学する。	
○幼児の姿・●教師の姿	☆教師の援助・★読み取り
○「どんな勉強してるのかな?」「小学校探検楽しみ!」と口々に話しながら小学校へ向かう。 ●「楽しみだね」「どんな場所が気になる?」と声を掛け、想いを受け止め共感しながら期待が膨らむようにした。 ○「給食食いたいな!」「お兄ちゃんが勉強してるのを見たい!」と口々に話す。	☆それぞれの気になることや楽しみなことを話しながら、見学を楽しみにしたり自分なりの目的をもって参加したりできるようにする。

○学校で先生や小学生たちに会うと「おはようございます！」と元気よく挨拶をしていた。

○1年生とペアを組む時、初めは戸惑ったり緊張して上手く話せずに、教師の手を引く姿があった。

○ペアになった小学生に「お名前は？」と聞かれ、名前を答える子どもや恥ずかしそうに上手く答えられずにいる子どももいた。

●子どもたちの姿を見回りながら上手く話せていない子どもと一緒に名前を言ったり間に入ったりした。

○小学生に手をつないでもらい、「こっちだよ」・「階段はゆっくりで良いよ」と声を掛けてもらいながら校内を見学する。



○体育館や図工室、音楽室、教室などを回りながら、「ここで勉強するんだよ」・「静かに見てね」などと言う小学生の話を静かによく聞いていた。

○色々な教室や校舎を移動しながら、「迷路みたい！」・「広いね」と驚いていた。

○実際に1年生の教室に入ると「お勉強楽しみ」・「ランドセルいっぱいある」・「私もランドセル買ったよ」と興奮気味に話していた。「机と椅子がたくさんある」と実際に椅子に座らせてもらい満足そうだった。

○見学が終わり校庭に集まった際、ペアの小学生に「何が楽しかった？」と聞かれ、「歌っているところを見たこと！」と子どもが答えた。すると、小学生に「1年生になって皆で歌うの楽しみだね」と声を掛けてもらい笑顔を見せていた。

○ペアの小学生と握手をして「ありがとう」と挨拶をする時には、最初緊張していた子どももしっかり握手をして挨拶を交わしていた。

☆緊張する子どもには、傍に寄り添い安心できるようにして、小学生たちと話せるよう子ども同士をつないでいった。

★年長児一人に付き3・4人の小学生がペアだったため、たくさんの小学生に囲まれ緊張しているようだった。

☆緊張を和らげ関わりを持てるように声を掛けるようにした。

★緊張していた子どもも優しく手をつないでもらったり足並みを合わせてもらったりして安心しているようだった。



★実際に教室に入ったことで小学生へのイメージが膨らみ憧れが高まったように見えた。

★初めより小学生たちと打ち解けて仲良くなり、会話も増えていったのだろう。

★実生活でのこと（ランドセルなど）を目にすることができて、感激が増したのだろう。

☆それぞれがしっかり挨拶したり関わったりできるように見守りながら寄り添った。

○考察

前回は、音楽会の練習を見学したため、小学生と密に関わる時間が少なかった。今回は、ペアと一緒に様々な教室を見学することを通してたくさんの発見があり、なかなか言葉だけでは想像できない小学校での生活のイメージが膨らんだように思う。

小学生との交流では、はじめはたくさんの小学生に囲まれ緊張したり上手く話せずにいたりする姿が目立ったが、手をつないでもらい優しくしてもらったことで少しずつ安心感へ変わっていったように思う。

園へ帰ってきた後には、「〇〇ちゃんが優しかった」とペアだった小学生の名前を挙げ話したり「ランドセルを入れるところがあったよ」・「迷路みたいに広がった」・「早く1年生になりたい」とそれぞれの発見や想いを話し合ったりした。小学校での生活を見ることができたこと・触れ合うことができたことで期待感が高まっているようだった。

<発表④> 小学校就学に向けての取り組みと今後の予定

幼保連携型認定こども園 桃の木幼稚園 潮崎 綾乃

1. はじめに

桃の木幼稚園では、近隣小学校との交流や連絡会・A小学校からいただいたスタートアップカリキュラムを通して、就学に向けて園で取り組んで欲しいことをお聞きした。子ども達が、小学校の生活に親しみや期待をもち、安心して就学できるように幼稚園でも就学に向けて取り組んでいくべきだと考えた。

2. 近隣小学校との取り組み

○令和5年度の1月19日にオープンスクールがあり、A小学校とB小学校にて、年長主任と担任4名の計5名で見学させていただいた。

- ・黒板の上に、「みぎ」「ひだり」など視覚的教材が沢山掲示されていた。
- ・体育の授業【跳び箱】では、一人1台 iPad を持って授業に参加し、跳び方を動画に撮り気づきや改善点を話し合っていた。
- ・友達同士では、名前を「〇〇さん」と呼びあっていた。

○令和5年度の2月に「幼小連絡会」を行い、A小学校・B小学校・C小学校・D小学校の1年生担任の先生方に来園していただき、就学に向けて園で取り組んで欲しいことをお聞きした。

- ・牛乳パックのたたみ方やジャムの開け方を知らせること。
- ・液体のりの使い方を知らせること。
→連絡帳にプリントを貼る際に、のりを出しすぎてベタベタになってしまうため。
- ・椅子にしっかり座ること。

○令和6年度(今年度)12月にA小学校より「令和6年度のスタートアップカリキュラム」が届いた。

3. 就学に向けて三学期にクラスで取り組む予定の事項

- ・子どもの名前を「〇〇さん」と苗字で呼ぶ。
- ・給食を30分以内に食べる目標を決め、30分経過の合図としてチャイムを鳴らす。
(チャイムは小学校と同じ音を使用)
- ・週1回のパン給食の日に牛乳が出るため、牛乳パックをたたむ練習をする。また、同日にパンに塗るジャムをメニューに加え、ジャムパックを開ける経験を重ねる。
- ・給食当番の役割を伝え、給食室と一緒に受け取りに行ったり、お茶を入れる練習をしたりする。
- ・製作ではでんぷんのりではなくスティックのり(液体の物)を使用する。
- ・話を聞く際には、正しい姿勢で椅子に座ることができるよう促す。
- ・道具箱の中や身の回りの物が乱れないよう、また乱れた場合は整えるよう、自分で整理整頓する時間を作る。

～令和6年度の予定～

- ・1月21日(火)にオープンスクールを見学する。
- ・2月26日(水)に下畑台小学校1年生との交流会を行う。

IV. 総括（振り返り） ～幼保小との連携・接続に取り組んで～

■ 得られた成果 ■

<子どもたちにとって特に良かったこと>

- ・施設や学習などの見学を通して幼稚園との違いを知り、大いに刺激を受けて就学への期待につながっている。特に、音楽会の練習の見学では、「カッコいい合奏にしよう」と意欲的に練習して取り組む姿が各事例にみられた。
- ・近隣幼保園との交流を通して、他園の子どもたちと親しみ、入学後の友達づくりや就学への安心感・期待感をもつことができた。
- ・話し合いを取り入れたことで、積極的な発言や相手の話を聞く大切さや想いを伝える言葉選びの必要性・大切さを学び、併せて一つの活動やクラスの絆が深まった。

<保育者の学び>

- ・就学に対する保護者アンケートで具体的な不安や心配事を知ることができた。
- ・近隣幼保園との連携を通して、各園で大切にしている保育理念を知ったり、保育者同士のコミュニケーションが自然と図れたりした。
- ・小学校では、子どもを「〇〇さん」付けで呼ぶこと・自分から積極的に発言する大切さを知った。

■ 実践上の困難や課題について ■

- ・交流活動などでの打ち合わせで、事前の「具体的なねらいや環境づくり」の共有が不十分であった。
- ・5歳児全体では人数が多く、学校側の受け入れが困難であったり、日程が取りにくかった。
- ・課題として、幼保小が幼児期から児童期への発達の流れを共通理解していくためにも、具体的な姿や計画などを出し合い、継続した取り組みが求められる。
- ・4歳児が小学校との交流まで発展する難しさを感じた。

■ グループ研究全体を通しての学びや感想 ■

- ・他園の様々な実践やアプローチカリキュラムなどが参考になり、自園での取り組みのきっかけとなった。
- ・近隣の幼保園との連携が、入学後の友達づくりや就学への安心感につながる大切な取り組みであると実感させられた。
- ・研究全体を通して、就学前に育てる必要のある資質を確認すること・架け橋期について幼保小が互いに理解し合うことの大切さを学んだ。
- ・幼児や保護者が、小学校の施設や生活を知ることによって不安や心配事の解消につながっている。
- ・幼保小が年間の交流計画を共有していることが、連携を着実に進める鍵であることを確認し合った。

V. おわりに

今回、小学校から幼保園へ・幼保園から小学校へと互いの呼びかけ合いにより、各園の実情を踏まえながら、取り組みの内容が違えど連携・接続し合う関係づくりが深められた。

また、神戸市の各小学校では「つばめプロジェクト」のもと連携・接続への気運も高まり、幼児期の子どもの生活や育ちに配慮したアプローチカリキュラムに基づき、生活や教科指導が実践されていることも明らかになった。

従って今後の課題として、待ちの姿勢ではなく、幼保小で作成された年間の交流計画を持ち寄り共有を図る中で、継続して連携活動が進められることが求められる。

今回の取り組みによって、幼児が小学校という新しい世界で自己発揮しながら大きく成長していくためにも、「架け橋期」において幼保小が子どもの育ちへの配慮や様々な交流の必要性や大切さを改めて実感することになった。